

第 1 章 調査概要

第 1 章 調査概要

1 - 1 背景と目的

播磨臨海地域（明石市・稲美町・播磨町・加古川市・高砂市・姫路市の 4 市 2 町を中心とした地域）は、兵庫県の南西部、神戸市の西隣りに位置し、古くから瀬戸内の海運や西国街道を利用した「ものづくり」で栄えた地域である。現在でもその地理的条件を生かした工場やユニークで高度な技術をもった企業が多く、製造品出荷額においても他の政令指定都市をしのぐほどである。

このため、これらの産業を支える人的交流や物流量が多く、東西幹線道路である国道 2 号バイパスの交通量は姫路バイパスで 13 万 3000 台/24h（設計容量約 7 万台）加古川バイパスで 10 万台（設計容量約 5 万台）となっており、全国でも上位にランクされるほどの交通量の多い道路で、激しい交通渋滞を引き起こしている。国道 2 号バイパスの渋滞の影響は本線だけでなく、出入路や周辺的生活道路にまで及んでおり、渋滞が慢性化していて、交通事故の発生率も隣接する神戸市の 1.4 倍にまで達している。

このような国道 2 号バイパスの渋滞問題は、播磨臨海地域における産業力の低下、生活道路の悪化を引き起こしており、地元の 4 市 2 町からなる播磨臨海地域道路網協議会は臨海部に播磨臨海地域道路網構想を発案し概略ルートを発表している。

国土交通省は、これまで、ナンバープレート調査等を行うなど国道 2 号バイパスの交通量特性や当地域の道路交通上の課題把握に努めてきたが、国道 2 号バイパスの渋滞問題の解決策の一つである播磨臨海地域道路網についても、地元自治体や経済界と連携・協力し、より具体的な調査・検討を行うこととした。

本業務は、当該地域における道路整備の受益者である企業や地域住民の他、幅広い分野の有識者から意見聴取を行い、経済・産業活動を展開する企業等の道路利用実態や道路整備に対するニーズ等を把握するとともに、臨海部に多くの工場が立地している地理的特性をふまえた企業等との協働型道路整備手法について検討を行うものである。

業務の全体フローは 3 頁に示す。

1－2 業務の内容

(1) 地域住民及び有識者の意見・意向把握

播磨臨海地域の現状や将来ビジョンについて懇談会を実施し、有識者からの意見を聴取するとともに、それに対する地域住民の意向を把握するため、参加者に対するアンケート調査を実施した。

(2) 企業の意見・意向把握

播磨臨海地域における現在の道路網が抱える課題や改善に対する企業等の協働意識等を把握するため、企業に対するアンケート調査を実施した。

また、アンケート調査で回答をいただいた企業を対象に、播磨臨海地域の道路整備における企業との協働メニューについて、意向等をより詳細に把握することを目的としてヒアリング調査を実施した。

(3) 協働型道路整備手法に関する検討

道路整備における企業との協働メニューについて、国内外の事例収集、関連法令・制度等について整理するとともに、企業ヒアリング等の結果をふまえた播磨臨海地域における適用の可能性等について検討を行った。

【業務の全体構成】

本業務の全体構成は図に示すとおりである。

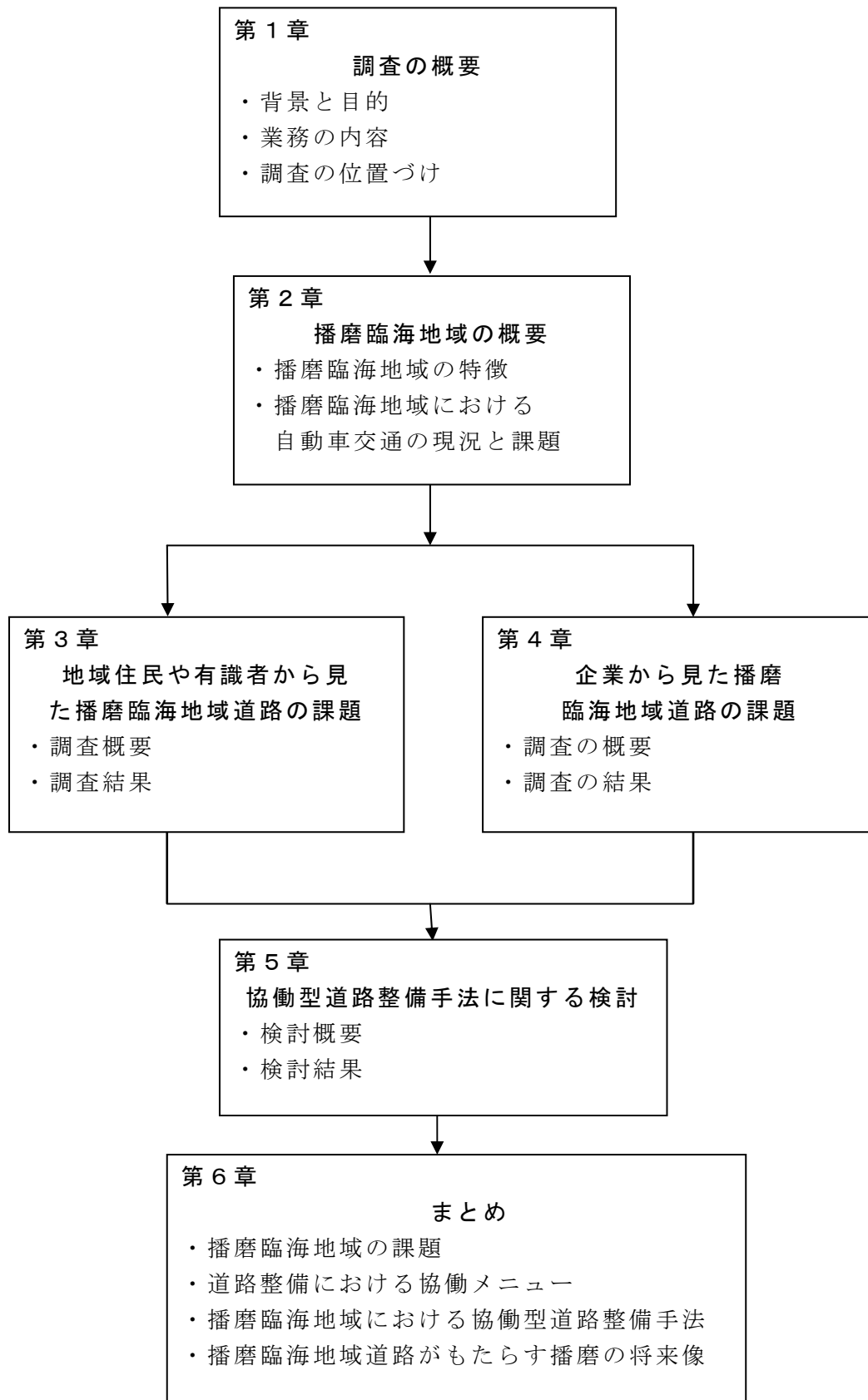


図 調査の全体構成

1-3 調査の位置づけ

これまで、兵庫県や地元自治体において、播磨臨海地域道路網の構想ルートが公表されているが、ルート延長が50kmと長く、全線供用には多大な事業費がかかるため、大幅なコスト削減を図ることが課題となっている。

これを踏まえ、本調査は、地域住民、有識者、企業等から見た地域の現状、課題、将来像等について把握するとともに、コスト削減に向けた企業等との協働型道路整備手法について検討を行うものである。

